

地域がつながる北千葉道路

一般国道464号北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道(水戸線)のほぼ中間に位置し、首都圏の東京外かく環状道路から千葉ニュータウンを経て成田国際空港を結ぶ全長約43kmの幹線道路です。北千葉道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流と連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に役立ちます。



北千葉道路は現在、印西市若萩から成田市大山までの13.5km区間の事業を進めています。そのうち、千葉県施工区間である印西市若萩から成田市北須賀までの4.2km区間は、平成28年度に下り線を主体に供用を開始する予定です。この区間の開通により、平成25年度に暫定開通した区間1.8kmと合わせると約6.0kmがつながり、地域交通のかたちが大きく変わります。

いよいよ地域の期待が現実のものになります。



道路が出来るまで

平成28年度の供用開始に向けて、下り線を主体に工事が進んでいます。ここでは、起点(印西市若萩)から約1.4km地点の吉高北橋(5号橋)を例に、道路が出来るまでの様子を紹介しします。

- ① 橋台・橋脚完成時
- ② 橋台と橋脚の上に主桁を設置します。
- ③ 主桁と主桁の間に横桁を設置します。
- ④ 架設した横桁にコンクリート床版を敷きます。
- ⑤ コンクリート床版に雨水の浸入を防ぐため、防水層を設置します。
- ⑥ 防水層の上にアスファルトを敷きます。
- ⑦ 完成です。

北千葉道路と成田スカイアクセス(成田新高速鉄道)が北印旛沼を渡ることにより、その周辺にすむ湿地性希少鳥類に影響を与える可能性があることから、鳥たちのすみかとして「北須賀工区」と「大竹工区」の2箇所新たなヨシ原を造成しました。湿地性希少鳥類が生息できるよりよい環境をつくるための検討を行う「印旛沼ヨシ原の順応的管理に関する検討会」では“育てること”から現在は、“自然に育つこと”のための検討が重ねられています。また「大竹工区」では、水路の水質改善のために水位を上げるなどの試行もなされています。

自然をとりもどすヨシ原

印旛沼周辺の生物
オオヨシキリ

全長18.5cm。ギョギョシ、ギョギョシと昼夜かまわず騒がしく鳴く。夏季に飛来し、ヨシ原に生息。
撮影：浅野俊雄氏

子ども会議

地域の子どもたちに印旛沼の自然を学ぶ機会を設けるとともに、地域に愛される道路づくりを行うために、平成20年度から「北千葉道路子ども会議」を開催しています。子ども会議では、工事現場を見学するとともに、印旛沼の自然観察を行っています。平成27年度は印西市立には野小の4年生と、成田市立八生小の3年生・4年生が参加しました。

(仮称)印旛沼渡河橋の見学
学習の様子
平成27年6月
屋形船から北千葉道路と印旛沼を見学

学習の様子
平成27年6月
成田市立八生小学校
屋形船から北千葉道路と印旛沼を見学
ヨシ原(大竹工区)の見学

成田スカイアクセス

成田スカイアクセス(成田新高速鉄道)は平成22年7月の開業以来、成田国際空港へのアクセスや地域を結ぶ重要な役割を果たしています。スカイライナーは、成田スカイアクセス経由で在来線最高の時速160km/hの運転を行い、都心から成田国際空港を最短36分で結ぶ、欧米諸国に引けを取らない国際空港アクセスです。

インフォメーションセンターには、成田スカイアクセス(成田新高速鉄道)と北千葉道路の事業概要、成田湯川駅や(仮称)印旛沼渡河橋の模型、発掘された埋蔵文化財などを展示しています。是非お立ち寄り下さい。

センターからの眺め

展示室内部

成田新高速鉄道・北千葉道路 インフォメーションセンター
(成田市北須賀1622-2 印旛沼漁業協同組合内会議室) 開館時間 9:00~17:00 木曜日休館
北千葉道路建設事務所
※北千葉道路ニュースvol.1~vol.8が閲覧できます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/kitachi-do/>